

■購入者特典「イケメンエリートをゲットした体験談&解説集」

=====

こちらのテキストは著作権によって保護されています。
無断での引用・一部を利用した文章の作成など、すべては法律で禁止されています。ご自身の変容・変化にのみ、ご利用いただけますようお願いいたします。

=====

□Part1「14年間の苦しい結婚生活、離婚を乗り越え、年下のエリートサラリーマンに見初められて」

【事例】

40歳過ぎのM様は、14年間、モラルハラスメントに耐えてきました。顔がかっこいいからという理由で選んだご主人は、心無い態度や浮気を繰り返してきました。離婚調停に持ち込んでいたものの、相手の態度も固いもので、M様は自尊心も何もない人生を送っていました。

【解説】

M様は元々モラルハラスメントをする父親の元で育ち、男性に対して「どうせこんなものだ」という思い込みと、自分に対する自尊心のなさが問題点でした。
「相手がどうであれ私はきちんと生きてきた」という自分へのフォーカスで自尊心を育てながら、「そういう男性ばかりではない」という意識を持った結果、「顔ではなく、誠実に生きている、堅実なサラリーマン」とめぐり逢い、結婚なさり、43歳で念願のお母さんになりました。

□Part2「42 歳キャリアウーマンの私が、しっかり支えてくれる月収 80 万円の男性と結婚、さらに結婚後彼が出世」

【実例】

A 様は都内の商社に勤めるキャリアウーマン。しかし、仕事を頑張りあらゆることを抱えすぎ、パンクしそうになり、スクールに来てくださいました。

自分の時間がなく、仕事ばかりをしていて、まったく自分を好きになったり、愛するということができず、常に周囲の人に振り回されていました。

【解説】

A 様は幼い頃に父を亡くし、依存してくる母親を受け入れていました。我慢をするのが当然、「私がしっかりしなきゃ」と男性化していたため、無意識のレベルで男性を拒んでいました。

しかし、自分が母親が重荷だったこと、本当は女性らしく生きたかったことを認め、自分を解放したところ、どんどん本来の女性らしさが耀きだし、素晴らしい男性から見初められることとなったのです。

ここでのポイントは「背負っていた」ということ。女性であったとしても、自分を殺しながら生きることで、それが男性化になってしまうこともあるのです。

□Part3「16 歳年下のイケメン外国人男性からプロポーズされて・・・43 歳の初婚」

【実例】

E 様は 42 歳、男勝りでとても綺麗な容姿の人ですが、本当はそんな自分とは裏腹に、さまざまなことを抱え込んで生きていました。やりたいこともできずに仕事に犠牲をしていましたが、やりたい英会話を始めた結果、その教室に来ていた年下の外国人男性からアプローチされ、そのまま年の差婚となりました。

【解説】

もともと男性性が強い E 様と、女性性の感受性がある旦那様は、実はぴったりの相性でした。自分を無理に変えることなく、ただ、本来の自分の資質を認めながら「その自分がやりたいと思うこと」を肯定していったところ、素晴らしい男

性とめぐり逢い、そのままプロポーズされたという実例です。

ここでのポイントは、男性性と女性性のバランス。自分を否定して偽ることなく、誰もが幸せになることができるのです。

□Part4「不倫を乗り越えて王子様のような年下の誠実な男性と結婚」

【実例】

〇 様はそれまで不倫をしていました。やめたいと思いながらもなかなかやめられないときにセッションにお越しくださり、「不倫をしなければならないほど傷ついた自分」を癒やした結果、自然に不倫相手以外の男性にも心を開けるようになり、合コンで知り合った年下の誠実な彼と、不倫していた心の傷すべてを受け止めてもらいながら、1年経たずにすぐに結婚となりました。

【解説】

不倫をしてしまう人は、無意識に「そういう相手を望まないけれど、それでもその人がいないと生きていけない」ほどの心の傷を抱えている場合がほとんどです。

ただ「不倫はダメ」というのではなく、「なぜ不倫をしてしまうようになってしまったのか？」という根本的な痛みや、そこに至った自己否定感、自尊心のなさなどを癒していくことで、不倫を必要としていた心そのものを変え、新しい関係を作れるようになります。

□Part5「すべてを包み込んでくれる優しい旦那様と結婚、幸せな生活を」

【実例】

Y 様はそれまで、とても苦しい恋愛を繰り返してきました。自分を愛しているのではない「お金」「国籍」などを求める男性や、Y 様を粗末に扱う男性ばかりとしか知り合えずにいました。

しかし、自尊心や自己尊重を取り戻し、次々にいい就職先にステップアップするのと同時に、関わる男性もどんどん自分を尊重してくれる男性に変わり、最終的に自分を何よりも大切にしてくれる彼と幸せな結婚をして、現在、一児の母親です。

【解説】

Y 様の自尊心のなさ、学生時代のいじめが原因でした。それに伴い、いじめた相手への恨みや憎しみなども、自分を動かさなくしていた原因でした。

けれど、そういった感情を癒し、いじめていた対象の視点ではなく自分を認知できるようになったところ、職場の環境が変わると共に、顕著に関わる男性の質も変わっていったのです。

ここでのポイントはセルフイメージです。自分の思い込みから解放された結果、自分にふさわしい人がやってきたということです。

□Part6「乳がんで片胸を除去。それでも愛してくれる男性との恋愛」

【実例】

M 様は乳がんで片胸を切除した経験があります。そこにコンプレックスも抱いていましたが、自分の出来ることを精一杯やっていたところ、その自分の我慢強さや感受性、優しさに感動してくれるエリートの年下男性に恋され、そのまま結婚を前提としたお付き合いをするようになりました。

【解説】

社会的な「こういうのが美しいこと」という美に惑わされていると、自分の本質の価値を見失います。M 様も最初はそうでした。が、モテる男性ほど、そうした外側の容姿ではなく、中身を愛して必要としてくれる人もいます。

男性に対するレッテルや思い込み、そして、自分の肉体や美に対する思い込みというメンタルブロックを外したとき、2 人の愛は成就しました。

□Part7「大学生の子供がいても、イケメン社長からプロポーズされる」

【実例】

N 様は離婚経験があり、当時引きこもっていた息子がいました。離婚の理由は DV などです。けれど、講座を受け、自尊心を取り戻すにつれ、「何か鎧をつけないありのままの自分」を認められるようになり、自分への愛を感じられるようになりました。その結果、息子も自分から大検を受けて社会復帰し、さらに、仕事をしていた N 様に有名俳優が声をかけるなど、素晴らしい恋のチャンスが増えていきました。

最終的には、元スポーツ選手だった会社社長のご主人に見初められ、幸せな再婚をなさいました。

【解説】

DV などを受けてしまうと、一瞬、DV を受けた自分が本当の自分だと誤解し、著しく自分の価値が下がります。けれど、実際には、DV を受けたと言うことでさえ、女性としての愛情や忍耐がネガティブに現れただけで、本質は素晴らしいものを持っている証明です。

こうしてネガティブに使ってしまっていた自分の魅力を別の方向に発揮していくことで、どんどん素場らしい男性からアプローチされるようになるのです。

□Part8「ずっと側にいてくれた幼馴染みと、辛い離婚を乗り越えて結婚」

【実例】

T 様は、モラルハラスメントに耐えながら、自己価値を失いながら、毎日を必死で生きていました。けれど、自尊心を取り戻すにつれ、自分が間違っていたのではなく、相手が違っていたんだということに気づけるようになりました。

その結果、本当の愛情を与えてくれる幼馴染みとの愛に目覚め、幸せな再婚をなさり、すぐに一児の母となりました。

【解説】

人は「認知の歪み」といって、自分の判断を見失ってしまうことがあります。本当に愛情を与えてくれる人を見誤り、酷い人を受け入れてしまうのです。

子供時代、辛い体験が多いと、このように愛を当然のように誤解します。けれど、誤解をとくにつれ、「何が正しかったのか？」ということも理解できるようになり、本当の愛を手に入れることができるのです。

□Part9「鬱でも愛してくれる。そのままでいいと言ってくれる男性からプロポーズ」

【実例】

会社でのハードワーク&パワハラに耐えられず、講座を受講して下さったK様は、自分が鬱状態になっていることによりやく気づき、そのまま会社を退職しました。退職した結果、一時的に「私はダメな人間なのではないか？」と余計落ち込むこともありましたが、本来、やりたいこと＝お嫁さんになることを自分が諦めていたことに気づき、婚活を始めました。すると、すぐに彼女を愛してくれる男性とめぐり逢い、結婚することになりました。

【解説】

自分のやっていることが、「誰かの願望」であることも少なくありません。

本当はもっとやりたいことがあったり、望むことがあったとしても、「自分よりも親を優先」などしていると、やりたいこともできなくなるのです。

けれど、こうして「誰かの願望」ではなく自分の願望を生きるようになると、その願いはたちまち叶っていきます。

□Part10「子供が生めても生めなくても愛してくれる。2度の離婚を乗り越え経営者と結婚」

【実例】

M様はDVや働かない男性と結婚し、2度の離婚を経験しました。もともと男性に対して不信感があり、2度の離婚によってその不信感が強まりましたが、実際はその経験は「すべて」ではないこと、自分には本当は価値があったということを受け入れた結果、経営者の彼から見初められ、結婚することになったのです。

【解説】

M様は、「父親が酒乱・モラハラ・支配的」という家庭に育ちました。それゆえに、子供の頃から「男性はこういうもの」という信念があり、それがそのまま現実になってしまっていたのです。けれど、こうした思い込みを変え、支配してきた人たちから精神的に自律し、自分の素晴らしさや女性性を受け入れられるようになった結果、今までとは180度違う男性と出逢えたのです。

□Part11「DVを乗り越えて、最高に愛してくれる彼と年末に結婚します」

【実例】

K様はそれまでDVをする男性、お金を巻き上げる男性など、自分を粗末に扱う男性としか出逢えていませんでした。働きづめで、自分のキャリアもなにもない、自尊心のない生活をしていましたが、自尊心を取り戻して「もうDVなんて受けないでいい」と自分に許可できたところ、いい企業の社長さんからイベントでたまたまヘッドハンティングされたり、優しい男性と知り合えるようになりました。その彼と、年末にご結婚なさるそうです。

【解説】

DV や辛い体験は、無意識レベルで「自分がそれを許可してしまっている」ということから起こります。すべての現実はこの許可が招いているため、「ああ、これは私がやってしまっていたんだ」ということに気づき、「もう許さない」ということを決断できた瞬間に、別の現実や人間関係を手に入れることができます。また、「幸せを許可出来ていない」場合も、不幸ばかりが起きてしまいます。自分だけがとか、誰かを見捨てるのではないかといったあらゆる幸福への葛藤を乗り越えて、幸せを心から許可出来た結果、美しい恋愛も可能になるのです。

□Part12「都合のいい女から、最高に優しい彼に変わった！すでに 2 児の母です」

【事例】

T 様はそれまで都合のいい女扱いをされていて、好きな人にプロポーズも断られていました。けれど、どんなに婚活をしてもその人がいいとしか思えず、その中で「男性化して、自分を粗末に扱っていた自分」に気づき、自分をケアするようになりました。

元々女性らしい感受性を持っていた T 様は、美や女性らしい感性を大事にしていけばいくほど、彼が男性として優しくなり、その結果、2 度目のプロポーズを受けてくれたのです。

【解説】

男性が結婚を断る理由に、「無意識レベルで男性同士になってしまっている」ということがあります。

自分を粗末にしているということは、女性としての自分を尊重しないでいいという間違った許可につながったり、女性ではなく男としてモノとして自分を扱っていいという許可につながってしまうんですね。

こうした誤った許可は、「本来の自分」を取り戻すことで次第に出せるようになっていきます。それが、T 様にとっては、美しい石やアクセサリーといったもの

を手にすることでした。ただそれだけで女性らしい美と自己価値を取り戻し、T様は愛する人との結婚を達成されたのです。

□Part13「あんなに苦労したのは何だったの？最高に優しい年上の彼との最高の恋愛」

【実例】

それまで F 様は、叶わない恋ばかりを追いかけてきました。自分の中にある父親に似た人に認めてもらいたいがために、無意識に「自分を愛さない認めない男性」ばかりを追いかけ、失恋を繰り返していたのです。

しかし、自分が本当はそういった父親の仕打ちが苦しくいやだったことを受け入れられたとき、現実の世界でも、同じような男性に NO を出せるようになり、その正反対の誠実な男性からアプローチされるようになりました。

【解説】

私たちの無意識は、「慣れ親しんだもの」を追い、「慣れ親しんだパターン」を継続しようとしします。

愛ではないものを愛だと思い込んで何度も酷い目にあったり、わざと冷たい男性を選ぶということも、慣れだったり、「どうしてもこれをなさなければ」という間違った執着であることも多いのです。

こうした「子供時代からのパターンに慣れた潜在意識」を書き換えていくことで、新しいパターンを受け入れられるようになり、「本当に自分が暖かく感じる愛」を手に入れることは可能になります。

□Part14「7年の引きこもりを乗り越えて、最高に優しい彼と結婚を前提としたお付き合いに」

【事例】

M様は厳しい母親からの期待に応えられず、プレッシャーに負け、7年近く引きこもりになりました。そこから復帰するためにスクールに通い、社会でリハビリをするためにアルバイトをし始めましたが、そのパティシエさんから見初められ、結婚を前提とした愛を育むようになりました。

【解説】

M様の場合、母親との関係が不幸の原因ではなく、そこから派生して「母親の価値観で自分を判断するようになってしまった」ということが、不幸の原因でした。あまりに自己否定が強く、引きこもり＝自分は社会に受け入れられるはずがないとまで思ったのですが、でも実際には、母親の視点ではなく、M様をひとりの素晴らしい女性として見てくれる人はたくさんいたのです。それを受け入れた結果、簡単にアルバイトにも採用され、そのパティシエさんからも女性として大切にされるようになったのです。

□Part15「結婚した彼のお母様も、実の母以上に優しくしてくれます」

【事例】

S様は母親から虐待された経験があり、それゆえに人が恐く、結婚願望があるもののそれを認めることができませんでした。しかし、本当は誰かと一緒にいたい、人と愛しあいたいという気持ちがあり、恐怖を克服した後、オンラインの講座で婚活をしたところ、素敵な人とめぐり逢い結婚しました。そして、本当の家族以上に、周囲から大切にされています。

【解説】

S 様の問題点は、虐待されたことへの恐怖と、自分自身が愛しあいたい、人と関わりたいという気持ちがあるにも関わらず、それを認められないということでした。ここでは、無意識の望みの否認＝禁止になってしまっています。けれど、こうした無意識の禁止があることに気づき、虐待のトラウマごとそれを癒すことが出来れば、今までとは違った人生を歩めるようになります。

□Part16「ダメンズメーカーだったのに、なぜか〇〇の会社員や不動産社長から愛されて・・・」

【実例】

N 様はそれまで、自分を都合のいい女として扱ったり、貢がせるような男性と 8 年半以上もつきあい、苦しい別れを経験しました。それ以降も、同じように自分を女性として扱わない男性ばかり引き寄せ、お金を払ってきました。しかし、そうしたことがすべて「無意識の自尊心のなさ」と気づき、意識的に自分を改善したところ、どんどん美しくなり、結果的に一部上場企業の社員や経営者といった人からアプローチされるようになりました。

【解説】

同じ苦しみを繰り返すのは、自分自身が苦しみを受け入れるパターンを持っているからです。そして、その無意識のパターンにあった相手をわざわざ引き寄せたり、自分自身のパターンに引きずり込んでしまうのです。愛されるためにはナニカが必要と思っていた、だからこそ貢ぐ、犠牲になる、奉仕するといったパターンを持っていた N 様でしたが、「そのままでも愛されるんだ」と知ったところ、N 様を尊重してくれる男性ばかりが引き寄せられるようになったという、お手本のようなケースです。

□Part17「37 歳ですが、今は先生のおかげでどんどんモテてます！」

【実例】

G 様はそれまで、自分に自信がなく、まったく男性と付き合ったことがありませんでした。特に虐待経験もないのに、両親からは大切にされているはずなのに、それでも恋愛だけがうまくいかず、いつも孤独でした。

しかし、そもそも過保護の両親のパターンに巻き込まれていたことに気づき、両親との依存関係を解消したところ、どんどん明るく楽しく人生を過ごせるようになり、趣味の場や職場で男性から声をかけられるようになったのです。

【解説】

過保護に育てられているとき、虐待がないと一時的に思ったとしても、結果的にそれが「従う子供」のパターンであることも少なくありません。

それゆえに主体性がなく、常に人に従うばかりだと、個性もなく、男性から見て魅力が分からなくなってしまうことがあります。

両親との依存によって消されていた自己を取り戻すことによって、恋愛も、ひいては人生そのものを自分として生きられるように変わっていくのです。

□Part18「出逢ってすぐに、結婚を前提にとのお付き合いを申し込まれました」

【実例】

A 様はいつも片思いで破れるというパターンを持っていました。付き合ったとしても遊ばれてしまったり、尽くした結果結婚できないという空しいつきあいになってしまったり。

しかし、こうして愛に破れるという妄信的な潜在意識のシナリオを書き換えたところ、「本当は愛し合える自分」に自信を持てるようになり、その結果、心から大切にしてくれる男性とめぐり逢うことができたのです。その男性からは、出逢って2回目のデートで、結婚を前提にということを伝えてもらいました。

【解説】

苦しいパターンが何度か続くと、「私の愛は結果的にこうなる」と人は無意識に思うようになってしまいます。そして、こうして思い込んだまま、諦めたままお付き合いをしようとしても、諦めるようなことをさせる人にしか出逢えなくなってしまうのです。

しかし、その「感情・感覚・潜在意識のパターン」そのものを変えると、最終的に違う結果をもたらせる自分になり、最終的に違う結果をもたらしてくれる男性と、最初から出会えるようになります。

□Part19「離婚した私が・・・すぐに10歳以上年下のイケメン男性に愛されて」

【実例】

C様は離婚経験があり、子供はいませんでした。男性は頼れないものという不信感が強くなったあまり、愛されたいけれど人を拒絶しながら生きてきました。しかし、どうしても再婚して子供を産みたいという気持ちに嘘がつけなくなり、講座にきたところ、自分が女性として幸せになりたいという気持ちを抑圧しながら生きていたことに気づき、号泣しました。

その後、数回のお見合いをし、たまたまパーティで出逢った素敵な男性から猛アプローチを受け、結婚を前提にお付き合いすることとなりました。

【解説】

一度失敗をすると、人はその失敗を繰り返さないために、別の自分で生きようになります。しかし、これは反動形成と言って、「極端に失敗した自分を嫌い、その自分を否定しながら極端に恐れながら張りぼての自分を作る」ということになるため、結果、男性そのものを遠ざける男性的な生き方になってしまっていたのです。

けれど、こうした反動形成で培ってきた才能、プラス、本当の望みを許可しながら生きること、今までの人生を丸ごと活かせるような相手と出会えるようになります。

□Part20「あんなに恋愛に苦労したのに、今は最高のイケメンのほうが優しくしてくれます」

【実例】

D 様はそれまで自信がなく、自分のことを「この程度」だと思ってきました。30を過ぎて周囲からも「理想が高い」「妥協した方がいい」と言われ、そのために妥協した人と付き合ってきましたが、結果、ふられたり、酷い扱いをされることに苦しんでいました。

しかし、講座で自分の素晴らしさに気づき、自分が釣りあう人は本当はもっと素晴らしい人だったんだと自覚したところ、エリートで容姿も素敵な男性とめぐり逢い、お付き合いの末、婚約したのです。

【解説】

セルフイメージ＝自己価値を勘違いしていると、自分を低く見積もりすぎて、結果的に自分が本来フィットする男性を避け、わざわざ合わない、自分を粗末にする男性を引き寄せてしまうようになります。

周囲の意見や妥協しろという言葉は、自己価値を知らない人が、その価値観を押しつけているだけにすぎません。

□Part21「子供がいる私を、丸ごと愛してくれるイケメンの経営者に出会えました」

【実例】

Y 様は二人の子供がいる元専業主婦の女性です。パートを始めてなんとかやりくりをしていましたがとても辛く、資格もなにもない自分に自信も持てず、途方に暮れていました。

しかし、その自分にはあらゆる素晴らしさがあると気づいたとき、たまたまボランティア活動で一緒になった男性と意気投合し、丸ごとその自分を愛してもらえるようになったのです。

【解説】

資格や目に見えるキャリアと言ったものがなくても、容姿など関係なく、人は人を愛します。その人の感受性やその人の在り方が相手の心に響くことを、多くの人が忘れ、それゆえに自分を愛から遠ざけてしまっています。

けれど実際には、目に見えない心の素晴らしさや自分の在り方を認めた瞬間に、同じように生きてきた人とめぐり逢い、幸せな人生を送れるようになるのです。

□Part22「復縁したかった彼が、現彼女と別れて戻ってきてくれました」

【実例】

F様は復縁したい彼がいながらも、音信不通のまま3年間を過ごしていました。他に出逢いもありましたが、どうしても彼とやり直したい気持ちがあり、そのために講座を受講し、自分がいかに彼に自分勝手なことを言っていたのか、いかに彼をないがしろにしていたかに気づき、反省しました。

その結果、講座2日目のあとに彼から連絡があり、再会したところ、もう一度付き合って欲しいと告白されたのです。現在、同棲のために準備をしています。

【解説】

潜在意識は、時間や空間を超えます。自分自身が変われば、その変化は相手にも伝わるのです。そしてそれは、実際の行動ではなく、「こうだったけれど、でもこれからはこうしよう」という反省であっても、伝わります。

恋愛は、二人で創り出すものです。そのため、自分の無意識のパターンが変われば、相手もまた自分に対する態度を変えてくれるのです。

□Part23「病気でも愛してくれる、プロポーズしてくれる彼とめぐり逢えました」

【実例】

D様はそれまで、遠距離で10年以上も不倫をしていました。けれど、そういった生活の中で、持病が発覚することもあり、彼ともうまういなくなり、本当に

結婚したいと思い直し、別れの決断をしました。

そして、不倫していた自分を責め続けていたけれど、本当はその弱さも、肉体の苦しみも、自分の誠実さが「誤った人に利用された」結果だったんだと気づき、心から自分を許すことができました。

そして、弱い自分を愛せるようになりました。

その約 2 ヶ月後、婚活サイトで出逢った人からアプローチされ、すぐにプロポーズされ、相手のご両親にも大切に思ってもらいながら、「結婚後は働かないでいい」と言ってもらえるくらい愛された生活を送っています。

【解説】

病気だからとか、人はいろいろな条件を自分に対してつけてしまいます。

「だから愛されない」というパターンを自分の中に持っていますが、けれど実際には、「病気になってしまった自分も、不倫していた自分も、懸命に生きていた結果」でしかありません。

ネガティブな捉え方をするのではなく、自分を本当に大切にしながら愛すること。それができれば、私たちはどんどん自分を愛し、慈しみ、その結果、同じように自分を大切にしてくれる人にめぐり逢うことができます。

□Part24「醜いコンプレックスを持った私。でも、その私でも愛して受け入れてもらうことができました」

【実例】

S 様は、自分の肉体にコンプレックスがあり、それが気になってなかなか男性との交際に踏み切れずにいました。こんな自分を見られたら嫌われてしまうのではないかと、という不安にいつもさいなまれていたのです。

しかし、そもそもそういった完璧主義を自分に課していたのは両親だったことに気づき、両親の支配から抜けたところ、コンプレックスを持った自分を受け入れてくれる男性にめぐり逢えたのです。その男性は、肉体のコンプレックスを見せても、そのまま愛してくれたということです。

【解説】

自分を裁いているのは、いつも自分自身です。

人はさまざまな価値観を持っていますから、肉体的にコンプレックスがあったとしても、それを何も感じない男性も存在しています。

けれど、完璧主義になることで、自分がその完璧主義の檻に自分を閉じ込めてしまうのです。

□Part25「人よりも劣っていると思っていたのに、そんな私に癒されると言ってくれた」

【事例】

K様は、いつも自分が人よりも劣っている、何をするにしても遅い、何もできないということに苦しんでいました。

自信を持とうとしても、何をしても劣っているからこそ愛されない、そうしたことをいつも責め、男性ともうまく関われなかったのです。

しかし、そうした「遅い」ということも、人にとっては「癒し」となるという素晴らしい才能だったと受け入れたところ、実際にK様に「癒される」と言ってくれるエリートサラリーマンに出逢い、お付き合いが始まりました。

【解説】

しっかりと働き、稼いでいる男性ほど、普段はとても辛い仕事をこなしていたり、ハードワークだったりと言うことを繰り返しています。

そのため、「しっかりしている」ことよりも、一緒にいる女性に対しては癒やしやほっとする安心感などを求めていることが多いのです。

ここでは、男性心理を理解していなかったこと、そして、自分がそういった男性に求められる才能を持っていたと言うことを理解していなかったことが、愛を遠ざけていた原因になります。

□Part26「家事もなににもできないけれど、それでも彼は私を必要としてくれる」

【実例】

W 様は、男勝りに働くキャリアウーマンでした。家事なども得意ではない、でも仕事には一生懸命、寝ないでも髪を振り乱してもこなす、そんな生活をしていたのです。そんな自分はもちろん結婚できるわけがないと思っていましたが、やはり寂しい気持ちがあり、講座を受講したところ、「働いているのはダメな自分ではなくなるため」と、自己否定をベースにして生きていたことに気づきました。

そして、何かをするから愛されるではなく、ただ存在していても愛されていいということを認められたとき、年下の部下に告白されたのです。

【解説】

物事をするとき、「ダメな私をなんとかしたいから」というネガティブな気持ちが発端でしていると、何をどんなに努力しても、自分を否定する結果しか生まれません。そして、ブラックホールのように、やってもやってもダメ、という現実すら生んでしまいます。

こんな時ほど、「何かして改善をする」のではなく、ただ生きているだけで素晴らしい自分の命に対する根本的な尊敬を取り戻すことで、「本当はもう愛されてもよかった私」を許可出来るようになり、あらゆる現実が変わっていきます。

□Part27「逆プロポーズが叶った！今まで何を言っても結婚してくれなかったのに！」

【実例】

F 様は 10 年以上付き合った彼氏がいました。現在進行形で付き合っ、そろそろ子供も産みたいし結婚・・・と思っていましたが、いつまで経っても結婚してもらえず、自分を変えるか相手を変えたいと願っていました。

講座の中で、自分がいつも自分に対して取り繕ったり、妥協しながら生きていること、諦めながら生きていたというような絶望感があったことに気づき、それを癒したところ、「ダメでもいいから彼と結婚したい、でもダメなら次に」という気持ちになることができました。

そして逆プロポーズした結果、彼がそれを受けてくれたのです。

【解説】

私たちの現実、私たちの感情とセットになっています。

それゆえに、「最初から諦めている」「最初から絶望している」「最初から妥協している」などの感情を持っていると、それが現実化します。

しかし、そこが問題になっているだけなので、その感情そのものがなくなれば、その感情を現実再現する必要がなくなる＝再現できなくなるため、「結果、愛が叶う」という幸せな現実を手にしたのです。

□Part28「離婚を乗り越えて、すべてを受け入れて許してくれる彼に出逢えました」

【実例】

A様は若いときに結婚し、すぐに離婚した経験があり、それが原因で自分に自信を持てなくなっていました。周囲から責められ、負け犬という評価を受けたために、ずっとその自分から立ち直れず、36歳まで独身で居続けたのです。

しかし実際には、それだけ愛情をかけて人を愛したと言うこと。その本質があったということに気づき、ようやく離婚をポジティブに捉えられるようになりました。すると、今まで緊張していた生き方が変わり、リラックスして人とも関われるようになり、仕事で知り合った3歳年下の男性と再婚なさったのです。

【解説】

人はいつも、結果によって本質を見誤ります。

離婚歴があるということは、結婚するほど愛した人がいたという、「自分の本気の結果」でしかありません。

しかしそれをネガティブに捉える世間の常識に囚われてしまうと、本質は素晴らしいにもかかわらず、自分に自信を持てなくなってしまうのです。

□Part29「モテていたけれど本当は愛されていなかった。真実の愛をやっと得ました！」

【実例】

〇 様はとてもモテる女性で、ただ、関わる男性と結婚に至る交際はできませんでした。恋愛を楽しんではいましたが、それでもやはり真剣に付き合いたいと思い、講座を受講してくださいました。

その際、女性としての自分は魅力的だけれど、その根っこには、いつも優等生で相手に合わせないといけないと思い、病的に自分を無くして相手に合わせている自分に気づいたのです。

そこで改めて、「私は本当はこうしたい、こう生きたい、こう感じている」ということを思い直したところ、素晴らしい男性とめぐり逢い、心から大切にされるようになったのです。

【解説】

〇 様のように、無意識に相手に合わせてしまっているということは、実は多くの女性の中にも存在しています。

これは、「優等生でいたい」「親がいい子いてほしがった」など、空気を読んだ結果、そういう生き方が定着してしまったということです。

いい子はモテますが、でもそれは相手に合わせているだけなので、深いつきあいにはなりません。

いい子を捨て、本当はどうしたいかで生きられるようになると、その自分を本当の意味で尊重してくれる男性と出逢えるようになります。

□Part30「まさかそんなに素晴らしい男性にめぐり逢えるなんて！何をしてもOKと許してくれる甘い生活が叶った」

【事例】

S様は子供時代に虐待され、祖父母に育てられたため、不信感と復讐心だけで生きてきました。けれど、その経験を乗り越え、幸せな結婚をしてみたいと決意し、講座に来てくださいました。

S様の中には、「自分が幸せになったら親に復讐できない」「いつか苦しみを知って欲しい」という気持ちがあったため、それゆえに、自分が幸せになることを許可出来なかったのです。

そこで復讐心を癒したところ、本当に自分が望んでいたような、親以上に自分を大切にしてくれる男性とめぐり逢い、わずかに出逢って数ヶ月で結婚なさったのです。

【解説】

私たちの心理は、とても複雑です。

これをしたいと頭で考えていたとしても、心の奥底では「本当はしたくない」と思っている。そんな複雑な無意識を抱えていた結果、「親に見せつけるためには、私は幸せでいてはいけない、私は私の不幸な姿を親に見て欲しい」という人生になってしまっていたのです。

けれど、こうした復讐をしている限り、決して幸せになることはできません。

過去は終わったことです。でも、未来はこれから変えていくことが出来ます。

S様のように、「これから本当はどう生きたい？」と自分の本当に望むことを選択し直せたとき、人生を変えることはできるのです。